

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	17 / 2005 / 33-35
タイトル	サケ遡上始末記
著 者 名	五十嵐豊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

サケ遡上始末記

第6代 五十嵐 豊

昨年(平成16(2004)年)、私の住んでいる油川の中央を流れている天田内川に、大量のサケが遡上した。非常に珍しいことなので、記録に残したい。

天田内川は、青森五所川原線(県道26号線)沿いに、油川漁港まで全長10数キロの小河川である。

しかし、集落は河口から上流2km以内に見られるだけで、それまでは人家がなく、比較的きれいな川である。河口から上流へ約4kmほどは、川幅4~5mの兩岸コンクリートで固められた水路になっている。

この川が改修拡張され、現在は河口から750mほどが、川幅20m位の立派な河川に変貌している。この間、5つの橋と津軽海峡線が架けられているが、最も河口に近い、浜の橋の竣工が平成7(1995)年なので、改修は平成6年から始まったものと思われる。上流に向かって、大浜橋が平成10年、飛龍橋が11年、中道橋が13年10月、船岡橋が15年に竣工し、その後拡張工事は中断している。

川幅は拡張したもの、もともと水量が少ないため、飛龍橋から上流は、川の中にさらに幅4~5mの川を作っている。平成14(2002)年には、中道橋付近に、県が約6700万円かけて河川公園を作り、川に隣接する形で、あずまや、噴水、石の階段を整備した。噴水の水を確保するため、川を蛇籠でせき止めたため、1m弱の段差が生じている。

この川にサケが遡上したのである。もともと、天田内川は古い文献にもサケの遡上が記録されているようで、ここ数年も何匹かの遡上は確認されていた。

初めてサケの遡上を確認したのは10月12日で、前年も2匹のサケを確認した公園から川をのぞいて、一組のペアが産卵行動をしていたのを見つけた。さらに付近を調べて、この日は5匹ほど確認した。その後、少しは増えたものの、10月末までは10数匹位で、この段階では川を迷って遡上したものと考えていた。しかし、それにしては少し多いなど。

10月末、数日間大雨が降ってかなり増水した。水が引いた11月に入って急に増加し、上旬には100匹を超えるようになった。公園の段差が邪魔し、





元気のいい数匹は脇の石段を飛び越え遡上したが、多くは段差の下で群遊していた。この頃になると、サケの遡上に気づいた人も多くなり、サケの数も数百匹を超えた。

11月12日の東奥日報に、サケ「上がれないよ～」と報道され、天田内川のサケの遡上が市民に知られることになった。翌日、数人の作業員

が来て川底に土のうを積み上げ、段差を緩やかにするとともに、蛇籠の一部を壊し細い水路を確保した。水路の流れは速かったが、それでもかなりのサケが遡上した。さらに数日して蛇籠一個を完全に撤去し、これによって、幅2mほどの水路ができ、段差は解消され、サケはここに留まること無く遡上した。しかし段差はここだけでなく、さらに上流の橋の下にも1m弱の段差があり、今度はここで群遊していたが、それでも飛び越え遡上するものも多かった。

サケの数はますます増え、河口から上流までどこでも見られるようになった。見物人の数も増え、連日何十人もの人で公園付近が賑わった。

11月17日、サケがどこまで遡上しているのか、河口から川を遡ってみた。河口から約500mのところは公園で、この段差は解消されたが、約1200mのところにある森林軌道跡道路下の段差は解消されていない。しかし、ここを飛び越え遡上していることは確認していた。ここを過ぎて岡町の集落に入って驚いた、予想以上のサケがいる。サケは橋の下、ちょっとした深みを中心に数多く見られた。河口から3000mほどのところにある、厚生病院付近でも10数匹みられたが、ここから先ではほとんど見かけなくなった。

川はこの辺までは、両岸がコンクリートの水路になっている。これから先は、田んぼ側はコンクリートであるが、山側は自然のままで、少しは川らしくなっている。やっと川らしくなったのに、サケの姿が見られなくなった。しばらく上って引き返した。この先どこまで遡上しているのか、はっきりしないが少しは上っているのではないだろうか。

11月30日、産卵の済んだサケの死がい、数多く見られるようになったので数えてみた。軌道跡道路から河口まで1200mの間に、実に650匹以上が数えられた。しかし、元気に泳いでいるものも100匹以上はいた。

12月5日大雨で、川は濁流であふれたが、翌日公園付近で数匹が確認された。8日岡町付近の上流部では確認できなかった。12日公園付近で10数匹、14日7匹、18日3匹確認されたが、20日から的大雪でその後は確認出来なかった。

以上で、昨年のサケ騒動は終わったが、果たしてどれくらいのサケが遡上したのだろうか。

僅か 1200m 間での死がいの数と生存数、さらに上流部への遡上の数から、少なくとも 1000 匹以上、数千匹は遡上したのではないだろうか。

サケは 4・5 年で生まれた河川に帰ってくる。天田内川にはこれまでも、数匹のサケは見られた。しかし、大量の遡上は無かった。当然 4・5 年前も遡上は無かった。なぜ昨年、大量の遡上が起きたのか、理由がわからない。ただ、昨年の陸奥湾のサケの漁獲高は例年の倍だったらしい。湾内に大量に入り込んだサケが、水量は少ないものの、改修で河口の広くなった天田内川に紛れ込んだものだろうか。

産卵はいたる所で行われたようだ。ユリカモメが大勢飛来し、卵を食べていた。直接の産卵は見られなかったが、ペアでの産卵行動の穴掘りは、盛んに見られた。流れで掘り

出された卵が、淀みに大量に見られることもあった。しかし、これらの卵が無事孵化し、稚魚の生まれる可能性は少ないように思われる。なにせ、両側がコンクリートの水路で、大雨が降ると濁流が渦巻く。卵はほとんど流されてしまっただろう。さらに、雪解け時の水量は、改修された川幅一杯になる。

さて、今年はサケは来るだろうか。これからも来るだろうか、期待出来ない気がする。

